

木崎中だより	3号	平成28年6月1日(水) さいたま市立木崎中学校 048(886)4302
--------	----	---

木崎魂

校長 大澤 敬

爽やかだった5月も瞬く間に終わってしまい、気温が30度を超える日もあるなど、夏が近いことを感じる季節となりました。身体が暑さに慣れていないこの季節、熱中症などに十分注意して生活してほしいと思います。

さて、今年度は耐震工事の関係で体育祭を5月に実施し、先日大成功のうちに無事終了したわけですが、今回は体育祭を終えて感じたことを書きたいと思います。

今年度のテーマは『歴史に名を刻め 輝け我らの木崎魂』でした。開会式で私は『木崎魂』がどんなものなのか、しっかりと見る」と言いました。体育祭の取組は5月の連休明けに始まったので、実質2週間の練習期間でしたが、その間のクラスでの取組、体育祭実行委員会の生徒たちの頑張りをずっと見ていましたので、『木崎魂』がどんなものかは大よそ想像がつかしました。しかし本番の体育祭でそれを感じ、確信したかったのです。体育祭は大成功で、本当に素晴らしいものでした。閉会式で私は体育祭を通じて確信した『木崎魂』として3つのことを挙げました。

『団結・友情』

学級対抗の種目練習を見ていて、最初は上手いかなかったムカデや大縄が、クラスがまとまっていくにつれてみるみる上達してくのがわかりました。体育祭当日もクラスで円陣を組んで気合を入れたり、励まし合ったりする姿が随所で見られました。立て看板やクラス旗も体育祭の重要な一部分ですが、制作にあたってはそれぞれが得意分野を分担して、全員が何らかの面で貢献していました。まさに「団結・友情」が示されたと思います。

『最後まで諦めないこと』

本部席は多くの種目の決勝位置にあり、ゴールしてくる選手を間近で見ることができます。競走種目が多いので順位がついてしまうのですが、どの生徒もどんな順位でゴールしようが必死で走ってきました。中には力を使い果たし、ゴール後に倒れ込む生徒もいました。勝負がついてしまうと手を抜いてゴールする生徒がいるものですが、今回の体育祭では皆無でした。最後まで諦めない姿勢、これがみんなが示してくれた2つ目の『木崎魂』です。

『一所懸命、全力で』

体育祭本番はもちろん、クラスでの練習、学年や全体練習でも自分たちが主体となり、より良いものを作るため全力を尽くしている姿を見ることができました。特に伝えておきたいのは体育祭を裏で支えてくれた人たちの頑張りで、体育祭実行委員、生徒会役員はもとより、各部活の生徒や各係の生徒が準備から本番に至るまで、全力で職務を全うしていました。「日本一の体育祭を作る」という共通の目標の下で全生徒が『一所懸命、全力で』取り組んでいたと思います。

この『木崎魂』が残りの生活の随所に見ることができたら、今年の体育祭の目的は立派に達成されたこととなります。これからの学校生活、学習、行事に十分生かされることを期待しています。早速、今月の土日から学校総合大会が始まります。体育祭で示してくれた『木崎魂』を今度は大会で見られることを楽しみにしています。勝負ですから勝ち負けはあります。しかし勝ち負けよりも大切なことがあります。『木崎魂』に「正々堂々」とを加え、悔いのない大会にしてください。特に3年生は最後の大会になるかもしれません。悔いのない試合をしましょう。私もで

きる限り会場に出向き、もう一度皆さんの『木崎魂』に感動したいと思っています。